

## 今月のコラム

### ドライガーデンの勧め

ハクサンインターナショナル株式会社  
代表取締役社長 水野 隆氏



アメリカの高温乾燥地帯であるネバダ州・テキサス州、さらに南カルフォルニアでも慢性的な水不足が深刻になり、洗車や庭の灌水などに制限が出され、違反すれば罰金ということになっているそうです。

アメリカの住宅風景といえば、青々とした芝生の庭が広がり、スプリンクラーで自動灌水するという豊かなイメージを思い浮かべる人は多いのではないのでしょうか。州政府はこの危機的な水不足対策として、芝の庭を剥して砂利などを敷き詰め、サボテンなどの乾燥に強い植物を用いた「ドライガーデン」に変えることを推奨しています。地域によって異なりますが、個人邸で1,500平方フィート(約42坪)まで、最大2,600ドル(約29万円)の補助金が出るそうです。このため、補助金が出る地域の造園業者は、今までにない活況を呈して大繁盛とのことでした。

豊かな水資源に恵まれる日本でも、最近では節水制限の出る地域もあり、特に夏の高温期には過乾燥により庭植えの植物が傷んでしまうことも起きるようになってきました。ガーデンといえばイングリッシュガーデンに代表されるような、宿根草やシユラブなどで、ナチュラルな庭作りが人気です。しかしながら、春から秋にかけては、花の手入れや剪定、雑草の駆除等々、綺麗に保つにはそれなりの努力が必要です。実は、この努力こそがガーデニングの醍醐味なのですが、忙しい現代人にとっては「煩わしい」ことでもあります。こんな人たちにとって「ドライガーデン」は、水やりや草取りなどのメンテナンスから解放され、しかもエスニックなイメージを醸し出してくれます。洋風の家屋やエクステリアにも良く合い、一味違ったお洒落な雰囲気味わえます。

カルフォルニアなどと違って、日本では冬季の寒さ対策が必要で、植物も耐寒性と乾燥に強い種類でなければなりません。人気のユッカのロストラータやアガベなどは、庭植に手頃なサイズになると、まだまだとても高価で手が出せません。比較的、サイズのわりに安価なものとして、コルジリネのオーストラリス種やユッカのフィラメントーサ種が、メインアイテムとして利用できます。下草としては、耐寒力のある多肉植物やカラフルなセダム類が園芸店で簡単に手に入ります。

我が家では、軽石と硬めの赤玉土等を混ぜた用土を20cm程敷き、ユッカやアガベなどを軽く植え込み、その上に軽石やセラミック碎石(瓦)などを適度に混ぜ、最低3~5cm以上の厚さになるように被せました。こうすると、GLより25cm程高くなり、梅雨時の長雨による根部の湿潤も気になりません。植え込んだ植物は、一年中灌水しなくとも健康に育ち、しかも雑草の発生はほぼ抑えられ、ほとんどメンテナンスに手がかかることもなくなりました。おかげで、休日にはのんびりとガーデン生活を楽しんでいます。





会からのお知らせ

## 「第10回エクステリア&ガーデンフェア名古屋」 会員企業で共同出展のお知らせ

ガーデンを考える会は、5月10日(金)～11日(土)にポートメッセ名古屋にて開催される「エクステリア&ガーデンフェア名古屋」に、会員企業が共同で出展します。

エクステリア業界では、今までとは違う植物を扱う施工の需要が増えており、新しいマーケットの情報収集、情報提供、未来志向の園芸PRなど実験的に出展します。

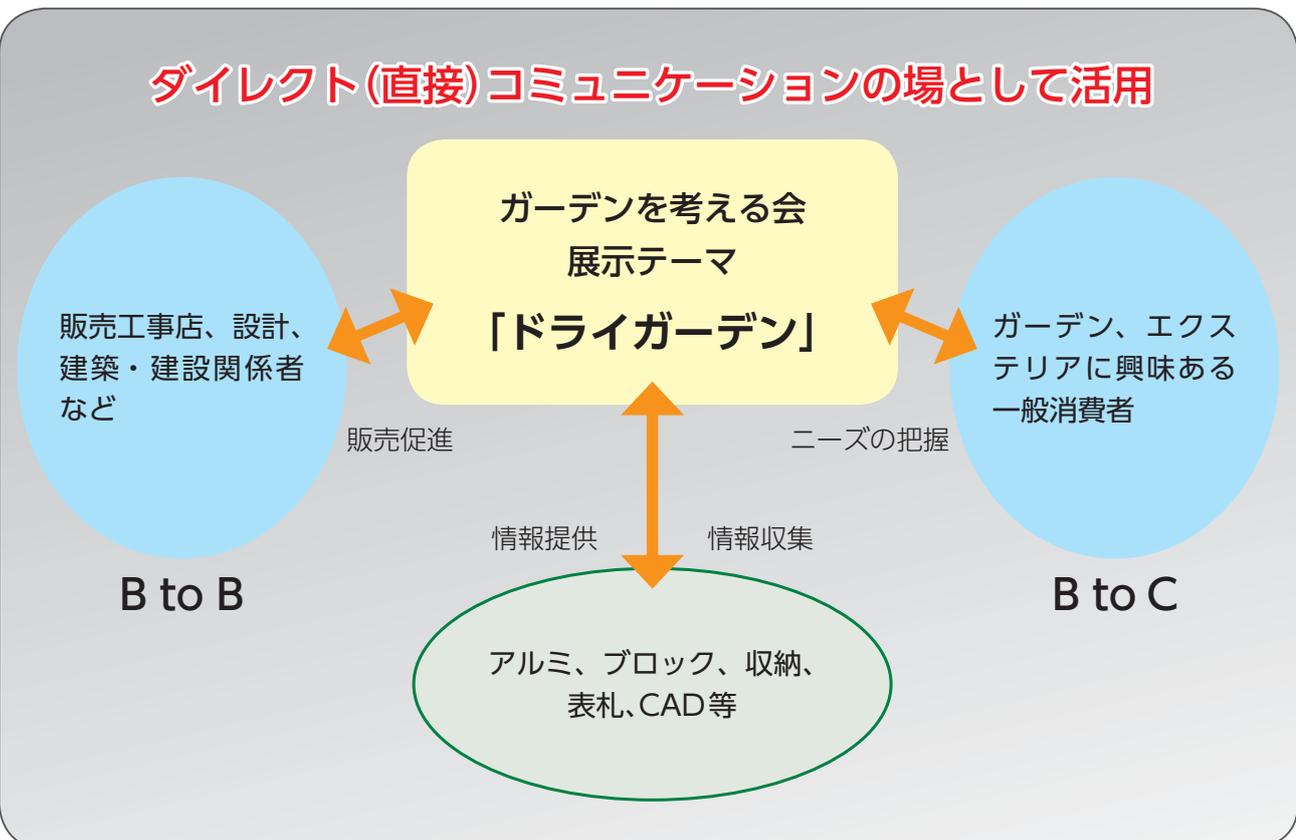
展示テーマの一つは、メンテナンスフリーの「ドライガーデン」。

水やりや除草などのメンテナンスがほとんど必要ない、耐寒性の観葉植物や多肉植物を使ったガーデンの展示をします。軽石やセラミックなどを使用して雑草の発生を抑えるなど、一般的な土質のものとは違う、ドライガーデンに適した用土をPRします。

もう一つの展示テーマは、玄関周りを植物で彩る「ウエルカムディスプレイ」。

ローメンテナンスでゆっくり生育する植物、及びそれなどをお洒落に飾るシステムの提案展示をする予定です。

### ダイレクト(直接)コミュニケーションの場として活用





会からのお知らせ

## ～子どもたちと地域の未来を考える～ 花と緑のまちづくりを支えよう

昨年9月9日の花と緑のまちづくりフォーラムin福岡での、「花と緑のまちづくり福岡宣言」を受け、「子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり 全国首長会」発起人会が発足、2019年度に全国首長会サミット(仮称)を開催すべく活動を開始した。

現在、亀岡市、横浜市、盛岡市、三島市、見附市、小松市、鴻巣市、淡路市の8首長が発起人として名乗りを上げ中、10首長を目標に呼びかけを継続し、5月下旬もしくは6月初旬には、発起人会議の開催を予定している。当会議を経た後、全国の首長に呼びかけ、秋にも全国首長会サミットを開催したいと考えている。

ガーデンを考える会は、支援組織として全国首長会を直接サポートするのではないが、首長会に参加している市町村の市民団体、ボランティア団体をプロ集団として、技術・情報などの側面から積極的に支援する。

庭に関わりのある業種、造園、エクステリア設計施工、外構、園芸用品メーカー、植木・植物生産者、園芸用品メーカー、流通業者などで構成している当会では、支援活動は全国各地の市町村へ行き、地元地域での支援会員が欠かせないことから、趣旨に賛同する全国の関係団体・企業に参加協力を呼び掛けている。

子どもたちと地域の未来を考える  
花と緑のまちづくり全国首長会  
「花緑サミット(仮称)」

市民・企業等による  
「花と緑の美しいまちづくり  
団体連絡協議会(仮称)」

関連企業等による  
支援組織  
NPO法人ガーデンを考える会



園芸業界ニュース

## エクステリア・造園業界の「働き方・雇い方」改革セミナー ユニマットリックが開催

ユニマットリックは、緑の就活キャンペーンの一環として、「働き方・雇い方」改革セミナーを1月24日15時より、ユニマット青山ビル会議室において開催、人手不足に悩む多くの企業関係者が参加した。

冒頭のあいさつで小松正幸社長より「人手不足の声は施工店に多かったが、大手ハウスメーカー、建材メーカーにも広がっている。採用するのも大変だが、転職サービスが増え転職させない工夫も大きな課題になっている。労働環境は大丈夫か、人材育成は、厚生制度はどうかなど職場環境は重要である。人事戦略を持っているかどうか、これからの企業の生死を決めると思っている。本日は研修の中から何かをつかんでいただき、一緒に頑張っていきたい」旨、挨拶があった。



左側は20代のホンネを語るためにお面をつけたパネリストたち

募集

## 日本家庭園芸普及協会「中国北京国際園芸博覧会」と 発展めざましい中国園芸 視察ツアー募集

(一社)日本家庭園芸普及協会は、「中国北京国際園芸博覧会」と発展めざましい中国園芸視察ツアー参加者を募集。

ツアーには協会副委員長の立花隆一氏が同行。広大な敷地で100か国が参加する国際博覧会と、現地生産企業・市場・庭園などを視察予定。

期間：7月6日(土)～7月9日(火)(4日間)

▽問い合わせ日本家庭園芸普及協会＝TEL 03 (3249) 0681